2013年7月1日

ＪＸ日鉱日石エネルギー株式会社
中国総代表　武川昌俊

今、日本に近くて遠い国「中国」

１．中国の概要

「O.K.Y」とは「お前　こっち来て　やってみろ」の略称である。

中国に駐在経験をお持ちの方は、この言葉の意味については心に沁みてご理解いただけるであろう。つまり、これは中国生活で遭遇する事象、人々の反応、役所の対応など、見るもの、聞くもの、発生するものが、日本スタンダードの枠に収まらず、仕事でそれらの問題に対応するにあたり、本社側社員の理解を得られないときに、思わず湧いてくる駐在員の『心の叫び』である。

しかし一方、こちら中国では、日本の人口の10倍の13億もの人々がいて、中国のスタンダードでちゃんと毎日生活しているのも事実だ。どちらがスタンダードかと迫られ、多数決で決めさせられると、ちょっと困る。圧倒的に人口が多い中国側が有利になってしまうから。人が多いだけではない。面積も日本の25倍はある。そのような市場が日本の隣に横たわっている。近年なんやかんやあるが、やはり日本にとって中国は無視できない国というのが実情であろう。

ところで、中国では自分の子供を国外に留学させるのが前からのブームである。そして留学先としてダントツに人気を誇るのがアメリカだ。毎年6月7日、8日は中国の全国大学入試統一試験が行われるが、この時期になると、北京市にあるアメリカ領事館の前には、学生や保護者が長蛇の列を成しているのをよく見かける。ほどほどに資金力のある家庭では、中国国内での大学進学ではなく、ちょっと学費がかかろうが思い切って国外留学を目指すケースも多い。面子を重んじる中国人社会では、海外留学組は帰国後も一目置かれるからである。大国意識が強い中国人は、同じ大国であるアメリカを意識し、性格的にも楽観的、前向きな点で似通っている面が多い。だから中国人は留学先にアメリカを選ぶ傾向がある。

以下は中国、アメリカ、日本の概要を比較した表である。

図１　中国、アメリカ、日本の概要比較表

現国名	中華人民共和国	アメリカ合衆国	日本国
成立	1949年10月1日	1776年7月4日	紀元前660年2月11日 （建国神話）
首都	北京	ワシントンD.C.	東京
面積	960万K㎡	940万K㎡	38万K㎡
人口	13.5億人	3億人	1.3億人
行政区分	23省、5自治区、 2特別行政区	50州	1都1道2府43県
主な民族	漢民族（92%）	ヨーロッパ系（80%） アフリカ系（13%）	日本系（99%）
主要言語	中国語	英語	日本語
現政府 最高指導者	習近平 国家主席	バラク・オバマ 大統領	安倍晋三 内閣総理大臣

お分かりいただけるのは、中国とアメリカの国土面積はほぼ同じだが、人口は圧倒的に中国が多くアメリカの 4 倍以上、日本の 10 倍以上あることである。

あと、中国には特別行政区というのが 2 つある。これは 1997 年イギリスから返還された香港と 1999 年ポルトガルから返還されたマカオを指している。鄧小平が健在だった当時の中国政府は一国二制度という離れ業をやってのけた。1 つの国に資本主義と社会主義を並存させる方法である。このような考えを実現した国は、世界中どこを探してもこの中国ぐらいではなかろうか。これこそが、短期的な観点ではなく長期的な観点で大事を捉えた中国人の「知恵」の 1 つであろう。なぜならその時、もし鄧小平が 1997 年返還後の香港に社会主義制度を即導入すると決定したら、資金力のある香港の住民は海外移住を真剣に検討しただろう。ある意味パニックに近い状態になっていたかもしれない。実際に当時はカナダやオーストラリアへ移住する香港人の動きがあった。ジャッキーチェンでさえも例外ではなかった。

しかし鄧小平は返還後の香港に 50 年間の資本主義経済維持の猶予期間を与え、香港住民の不安を取り除いたのである。これは、返還後も引き続き中国共産党トップの悪口を言い続けても問題ないことを意味する。では 50 年経過後どうするか？心配には及ばない。中国政府はその時の状況次第で判断するであろう。

２．中国の人口問題

いったい中国って昔からこんなに人口が多かったの？と疑問を持たれる方が多いと思う。そこで中国の人口変遷を日本と比較して以下のとおり調べてみた。

図２　中国及び日本の人口推移

中国の人口推移（「百度百科」より）			日本の人口推移（「国土交通省資料」より）		
B.C.3 世紀	秦朝時代	2,000 万人			
B.C.1 世紀	前漢時代	6,000 万人			
A.D.1 世紀	後漢時代	5,300 万人			
A.D.7 世紀	唐時代	4,600 万人	A.D.8 世紀	奈良時代	500 万人
A.D.11 世紀	北宋時代	1 億人	A.D.12 世紀	鎌倉時代	696 万人
A.D.17 世紀	清朝前期	3.6 億人	A.D.14 世紀	室町時代	818 万人
A.D.19 世紀	清朝晩期	4 億人	A.D.17 世紀	江戸時代	1,227 万人
1949 年	中華人民共和国建国時	5 億人	1900 年	明治時代	4,780 万人
2013 年	現在	13.5 億人	2013 年	現在	1.3 億人

中国の人口推移には波があり、当たり前のことだが長期政権が続き社会が安定した時期には増加し、不安定な時期には減少している。つまり、前漢、後漢、唐、北宋、清の前期という長期政権の社会安定期には増加傾向を示し、秦末、三国時代、明末の戦乱の時代には減少傾向が見られる。中国人口は 1 億人に達するまで数千年を要しているのに対し、そこから 3.6 億人に達するまで約 600 百年、そこから 5 億人に達するまでは約 300 年、そこから 13 億人に達するまではわずか 60 年と短期間で急増していることが分かる。

また、国連による将来の人口推計は、中国は 2030 年にはピークの 14.6 億人に達する

が、2050 年には 14.2 億人に減少すると予測している。2050 年の時点で、世界で一番人口の多い国は中国ではなく、インドの 21.7 億人と見られている。

さて、中国の人口問題についてだが、中国政府もさすがに苦労している。有名な中国の一人っ子政策は 1979 年に中国改革開放政策とともに始まった。これは出産に計画原理を導入し、人口の急増に法的規制を加えた政策である。この政策の効果によって今中国では少子化が進行している。

21 世紀に入り、一人っ子政策で生まれ育った 1980 年代生まれが現在 30 歳代、1990 年代生まれが 20 歳台を迎えている。彼らは基本的に両親と祖父母の合計 6 名の大人から、一身に愛情を受けて（甘やかされて）育つので、「小皇帝」とも呼ばれ、1970 年代生まれの世代とは異なる価値観を持っている。甘やかされて育ち、自分で家事を行う経験も乏しいため、独り立ちしても家事ができないケースが多い。

一人っ子政策では違反すると罰金を払うことになるが、高額所得者は罰金と引き換えに、第 2 子以降も産んでいる。中国で有名な映画監督である張芸謀氏は、罰金と引き換えに複数の子供を有していたことが最近発覚し、今年 5 月にはネット上で「庶民が守る中国の国策を金持ちが守らないのはけしからん！」と批判されたばかりだ。

それではいったい罰金はどれくらいかかるのだろうか。一般的に、年収の 3 倍から 10 倍以上と言われている。以下は中国の地方の県における罰金のおおよその目安である（カッコ内は 16 円/元で円換算した場合の金額）。

父母が農民である場合：平均 50,000 元（約 80 万円）
父母が農民と市民である場合：平均 80,000 元（約 128 万円）
父母が市民である場合：平均 100,000 万元（約 160 万円）

市民はともかく、農民がこんな多額のお金を払えるはずがない。

そこで、近年中国では地方都市や農村で様々な例外を設けるなど、段階的に第 2 子に対する規制を緩和してきている。2011 年には、中国行政区で一番人口の多い河南省（人口約 1 億人）を除く、ほとんどの地域で規制は緩和された。やっと同年 11 月 30 日、河南省でも夫婦が共に一人っ子であるかまたは農村戸籍の夫婦で第 1 子が女児であった場合に限り、第 2 子を認めるようになった。しかし、農村では元々戸籍謄本に載せる習慣が根付いておらず、夫婦が自発的に申告をしないことが往々にしてあるため、社会的身分を持たない子供らが依然存在している事実は否めない。

現在、中国では一人っ子政策の影響で 20 歳より若い世代の人口が急速に少なくなってきており、出生率の低下を招いている（出生率 1.2 人）。将来の人口構造はピラミッド型から釣り鐘型に変わり、いずれは日本と同じ超高齢化社会を迎えることが予想される。

３．中国国内の経済格差

人口は 13 億人。それぞれの省、自治区、直轄市が 1 つの国に相当する規模の面積と人口を有している。そして各行政区内部の経済格差は激しく、都市部は富み、農村部は貧しいというのが一般的である。農民の生活は場所によっては 100 年前と変わらず、夏でも扇風機をつけるのがもったいなく、暑いのを我慢して昼寝している状態だという。

中国政府はこれまで高速経済成長を追求し、あまり民生を重んじてこなかったといわれる。

しかし、今年 3 月開催の全人代（全国人民代表大会＝国家の最高権力機関）で正式に

発足した習近平体制は、従来とは流れを変え、民生を重んじ緩やかな経済発展を目指していく考えだ。李克強首相は、農村部と都市部との格差縮小、貧富の差を縮小するため農村の都市化を進める方針も打ち出している。

都市化には当然環境汚染がついて回るので、中国政府としてはできるだけ環境汚染の被害を食い止めたい考えだ。農村都市化と環境汚染はもろ刃の剣だが、中国に駐在する者としては、経済格差が縮まりビジネスチャンスが広がる農村の都市化と、最近話題の PM2.5 に代表される環境汚染の改善の両方を達成してほしいと切に願う。

４．ブランド好きの中国人

「倉廩（そうりん）実ちて礼節を知り、衣食足りて栄辱を知る」とは、今から約 2,700 年前、中国山東省にあった「斉国」の宰相だった管仲（かんちゅう）が残した言葉だ。これは卓見だと思う。彼の死後 100 年後に生まれた孔子の残した言葉、「子曰く、上、礼を好めば民使いやすし」とか「子曰く、己を修めてもって百姓（民）を安んず」などよりも相当現実味を帯びている。なぜなら管仲こそは、実際に春秋時代「斉国」の宰相として 40 年間政治にたずさわり、当時「斉国」のただの王だった桓公を、「春秋の五覇」の最初の覇者に仕立て上げた「実績」があるからである。この点、孔子が自分の理想とする「仁」と「礼」による政治を主張したものの自国「魯国」には採用されず、各国を 13 年間にわたり放浪したがどこにも認められず、最後には「魯国」に舞い戻り失意のまま 74 歳でこの世を去ったケースとは違っている。

今後農村の都市化が進めば、生活レベルが高まり、金持ちが増え、物資の需要が生まれる。まず「衣食足りて栄辱を知る」の段階を迎える。企業から見ればそこに市場としての価値が見出される。そこで重要になってくるのが日本品質と知名度（ブランド）である。

中国ではブランドは重要だ。なぜなら彼らはメンツを重んじる人々だからである。北京で見かける自動車は高級車が多い。軽自動車はほとんど見かけない。北京、上海の地価は日本の東京とほぼ同じである。大都市に住居を構える中国人は概して金持ちが多く、道路を走る高級車はその表れである。高級車に使用するのは当然高級潤滑油である。

しかし一方、中国には周知のとおりニセモノが多い。衣類、バッグ、開封前の容器の外観から判断しにくいお酒や潤滑油等に多く見られる。国酒と呼ばれるマオタイ酒にしろ、潤滑油製品にしろ、そのブランドが市場に定着し有名になれば、そのブランドにあやかってニセモノ製品を非合法に生産し中国市場に流通させる輩が現れる。しかし高級自動車にはニセモノは出現しない。これはニセモノ生産に要するコストが明らかに衣類やバッグとは違いすぎるからであろう。

このニセモノ問題の実感は日本国内で生活していると想像しにくい。我々が秋葉原で家電製品を購入する際、わざわざ箱を開封してコンセントを差込み家電製品がちゃんと作動するかどうかを確かめて購入しているだろうか。中国においてはその確認作業が当たり前のこととして実施されている。

中国の一般消費者はニセモノ製品が市場に氾濫していることは当然のこととして認識しているので、品質のよいブランド製品に意識が向く。そこで本物を製造・販売するブランドメーカーは、ニセモノと本物を区別するための識別方法に力を注ぐ。顧客が購入する際の識別方法を表示し、一般消費者にニセモノ購入回避の為の警告を与えている。例えば「角度により三色に変化するステッカー（日本技術）」「特殊メガネで見ると文字が見える」「シールを削り出てきた番号を携帯で入力すると真贋判別できる」などである。ただしここにもニセモノは登場しており、まさにイタチごっこの状況である。

いくら中国で反日運動が起きても、「日本技術による製品の品質は良い」という意識は中国全土に根付いている。昨年 9 月のような反日デモは二度と起こってほしくないが、今後、万が一あのような反日ムードの高まりがあろうとも、中国で築かれた日本品質の「ブランド力」がそう簡単に消えることは無いだろう。だったらどうすれば新たなブランドを中国市場に浸透させることができるのだろうか？そのヒントを「中国人の知っている日本人」に求めてみた。

図３　2012 年 9 月 中国で発生した反日運動時の写真

５．中国人の知っている日本人

東京で街を歩いている 100 人に「あなたの知っている著名な中国人は？」と聞くと果たして何人が答えられるだろうか？せいぜい中国の政治家だった毛沢東、周恩来、鄧小平、胡錦涛、そして今年 3 月にトップになった習近平氏の名前が出てくるのが関の山だろう。今年 3 月同じく総理になった李克強を答えられるのは 1～2 名ぐらいだろう。何も思い浮かばない人がもしかしたらほとんどかもしれない。

それでは、中国人が知っている日本人はどのような方がいるのであろうか？JX 北京のスタッフに政治家を除いた知名度のある日本人についてヒアリングしたところ、年代順に並べると以下のであった。

（1）高倉健

1972 年 9 月日中国交回復後、高倉健は中国で最初に放映された日本の映画「君よ 憤怒の河を渡れ」（中国名 :「追捕」）の主演男優で有名になった。

近年、彼は張芸謀監督の映画「単騎千里を走る」（中国名 :「千里走単騎」)」にも出演しており、彼の知名度は特に 50 歳代の中国人年齢層に今なお健在である。

（2）中野良子

同上映画「君よ憤怒の河を渡れ」の出演女優として有名になった。

彼女は中国の各地でコンサートを開催しており知名度は高倉健に同じく、特に 50 歳代の中国人年齢層にファンが多い。

（3）山口百恵

1975 放映テレビドラマ「赤い疑惑」（中国名 :「血疑」）が、中国で日本ドラマとして初めて放映され有名になった。

（4）酒井法子

1993年中国テレビコマーシャルで、松下電器のコマーシャルに出演して有名になった。彼女は中国でコンサートも開催、中国語の歌も歌い、知名度が高まった。彼女の知名度は今でも健在である。

（5）福原愛

中国遼寧省瀋陽市で中国のトップクラスの選手たちに混じり卓球を学んだ経験があり、 東北地方なまりの中国語を話すことから知名度が高い。

（6）浜崎あゆみ

近年中国でコンサートを開催したことで有名になった。

（7）SMAP（特に木村拓也）

SMAPが近年中国でコンサートを開催したことや、木村拓也が出演したテレビドラマがネット等で放映され有名になった。

上記の中でも酒井法子、福原愛、浜崎あゆみは、中国語によるブログで中国の人々に自分の存在を発信している。特に福原愛は自分の気持ちを自分の言葉（中国語で）で写真とともにコンパクトに発信しているのが特徴だ。

まだまだ中国経験の浅い私が述べるのもおこがましいが、これまでベテラン駐在員諸氏から聞いた話、それらの中で実感したこと等を踏まえ、新たなブランドを中国市場に浸透させるための条件について自分なりに考えてみると、以下のとおりである。

（1）ブランド発信者の心がしっかり中国に向いていること
（2）ネットを活用すること
（3）中国語で発信すること
（4）相手を受入れ相手が自分を身近に感じられるような工夫をすること

これらは言い換えると、まず自分自身が愛情を持ってまじめに中国と向き合うこと、そして企業としての考え・姿勢は「言葉」だけではなく、その「行動」に現れることを認識し、日々の企業活動に取り組むということではないかと思う。

中国ではいったんブランドが定着すれば、それが長く語り継がれる傾向がある。定着したブランドは中国市場においては長期的な財産となり、ビジネスチャンスを継続できることに繋がる。

実際にこういう話を聞いた。ある中国駐在員がたまたま2010年12月31日の大晦日の日、出張で中国西安市に宿泊したところ、本物の中野良子もそのホテルに宿泊していることが分かった。彼女はその大晦日の夜、玄奘三蔵で有名な大雁塔の前でコンサートを開催するという。その駐在員は彼女と遭遇できる場所を一生懸命考えた。その結果、彼はロビーで彼女がホテルに戻るのをひたすら待ち続け、ついに彼女との遭遇が実現し、ツーショット写真を取ることに成功したという。彼はその写真を営業活動に使用していると聞く。

つまり何が言いたいか。それは存在と名前がいったん中国人の心の中に深く定着すれば、想像以上に長続きするということだ。それほど中国市場は長く広く奥が深いということである。

「100年の計」で中国市場と向き合いたい。

６．終わりに

さて、最後に中国駐在雑感をひとつ。

昨今尖閣諸島問題で話題となっている日本と中国の関係。果たして我々の頭の中には、どれだけ中国に関する知識が残っているだろうか。その昔、『三国志』の１つである『魏志』「東夷伝」（『魏志倭人伝』などという史書はない）に記された邪馬台国女王の卑弥呼は、魏国（曹操の死後）に使者を遣わした。飛鳥時代の聖徳太子は小野妹子を遣隋使として隋の煬帝（ようだい）に遣わした。平安期の最澄と空海も遣唐使として海を渡り仏教を学び、帰国後それぞれ日本国内に顕教と密教を広めた。彼らはそれぞれ尖閣諸島のある東シナ海を船で渡っていった。これらの歴史については小学校で学んだ記憶をお持ちの方もいらっしゃると思う。

1972 年 9 月 29 日、日中国交正常化の日に北京で中国の周恩来総理が日本の田中角栄総理大臣に対して使った「一衣帯水」という言葉。この意味は「一筋の細い川を隔てた近隣」という意味である。この「水」とは中国と日本の間に横たわる東シナ海を指している。

しかし昨今の情勢から、中国に対する印象は「理解できない不可思議な国」の一言で片付けてしまう方々が多いのではないだろうか。これは中国側にしてみても同じで、「日本国や日本人の心が見えにくい」というイメージを持っている中国人がたくさんいると思われる。お互いに積極的に相手を理解しようという気持ちで向き合っていないのである。今、日本と中国の関係は、「一筋の細い川を隔てた近隣」という見方が消えて「大地溝帯を隔てた遠い隣人」に変化してきている。しかし、この日本と中国が隣同士という地理的関係は、地球規模でよほどの地殻変動が起きない限りこのまま継続することも事実である。国交正常化後 40 年たった今、改めて両国の「不正常な関係」を緩和し、前に発展させるための「知恵」が必要になってきているのではないだろうか。

A.D.4 世紀に今の新疆ウイグル自治区シルクロード天山南路の中間あたりにあった仏教国「亀茲（きじ）国」。その国にクマラジーヴァという高僧がいた。彼は「亀茲国」から当時中国の中原地帯を支配していた「後秦（こうしん）国」の都「長安」に移住し、そこで「亀茲国」からもってきた数々の仏典を中国語に翻訳し仏教の普及に努めた。これはかの『大唐西域記』で有名な唐の玄奘三蔵による仏典の中国語訳を遡ること約 250 年前のできごとである。

彼の例え話によれば、「共命鳥（ぐみょうちょう）」という鳥がいて、体は一つだが二つの頭を持っていた。片方の鳥が「右へ行きたい」と言えば、もう一方は「私は左へ行きたい」と言い、片方の鳥が「もっと遊びたい」と言えば、もう一方の鳥は「いや、もう遊ぶのは飽きた」と言う。事あるごとに意見が衝突していた。こうして毎日毎日言い争いをしていたのだが、ある日とうとうその喧嘩が昂じて片方の鳥が相手の喉首を噛み切ってしまった。噛まれた方はそれが致命傷になり命を落としてしまった。ところで噛んだほうも体が１つなので、しばらくして命を落としてしまう羽目になったという話である。

一人の日本人として、日本と中国の関係が「共命鳥」の運命にならないことを願う。

以上

≪プロフィール≫

武川　昌俊　（たけかわ　まさとし）

1978 年 3 月　慶應義塾大学 商学部卒業

1978 年 4 月　三菱石油株式会社入社

2008 年 4 月　新日本石油株式会社 東京支店長

2010 年 7 月　ＪＸ日鉱日石エネルギー株式会社 執行役員中国総代表 兼 北京事務所長

2012 年 6 月　ＪＸ日鉱日石エネルギー株式会社 常務執行役員中国総代表 兼 北京事務所長